練馬区立旭町小学校　学校だより　３月号　平成２７年２月２７日発行　校長　道山　正史

きらめく風

すすんで学ぶ子ども　心ゆたかな子ども　体をきたえる子ども

「優しさ」

旭町小学校　校長　道山　正史

１年の締めくくりの月を迎えました。３月２５日には５７名の６年生に卒業証書が手渡されます。最高学年の６年生は、学校生活のあらゆる場面でリーダーとなり、「学校の顔」として期待に応える活躍をしてくれました。今年度入学した１年生も学校生活に慣れ、あどけなさの中にも自信溢れる言動が数多く見られるようになりました。２年生から５年生も、学年の発達にふさわしい成長ぶりです。それぞれの教室に掲示されている学習活動の記録やファイルなどを読み返してみると、子供たちの頑張った場面が鮮やかによみがえり、成長が実感できます。

その場その場では喜びや悔しさなど、心動かす出来事の連続ですが、いつしか日常性の中で忘れていくことも多いのです。ですから３月は卒業や進級を前に「やれたこと」「できるようになったこと」を振り返り、努力や成長を確認したいものです。そして４月からのスタートにやる気と希望をもってほしいと思います。

４月から始まった旭町小学校での生活があっという間に１年になろうとしています。もちろん学校ですからいろいろなことはあったけれど、旭町小学校のもつ穏やかな学校風土が、すべてを包み込んでくれているような気がしています。現代の過密で騒がしい風潮からするととても貴重な雰囲気をもっているのです。しかしこの雰囲気を壊すことなく良き伝統として受け継いでいくことはそう簡単なことではありません。大人も子供も一人一人がそれこそ「優しい」気持ちをもって活動し生活していくことが、そしてそれを続けていくことが必要です。私は今年度の卒業文集に次のように書きました。

「(前略)でも、君たちの一番すばらしいところは、下の学年の子供たちに優しく接することができることだと私は思います。縦割り班活動や登校班、そして縦割り班清掃など、君たちが困った顔をしながらも小さな子供たちに優しく教え、諭し、一緒に活動している姿を見ると心が和んだものです。『優しい』ということは、自分を律しながらも、他人には寛容であるということです。また細かな思いやりや温かみがあるということです。君たちの下級生に対する『優しさ』が旭町小学校の伝統になっていくことでしょう。(後略)」

子供は地域の自然、文化、そして人の愛情で育ちます。けんかをして仲直りすることで、人とのかかわり方を学びます。思い通りにならないことがあってこそ我慢する心も育ちます。こうした子供の育ちの根底になくてはならないものが、家庭、地域、学校のそれぞれの教育力を共働させることなのだと思います。この学校にはそれがある、強く実感した１年間でした。

今年度の教育活動にあたり、保護者・地域の皆様、関係諸機関の方々には、ご支援、ご協力をいただきまして誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。